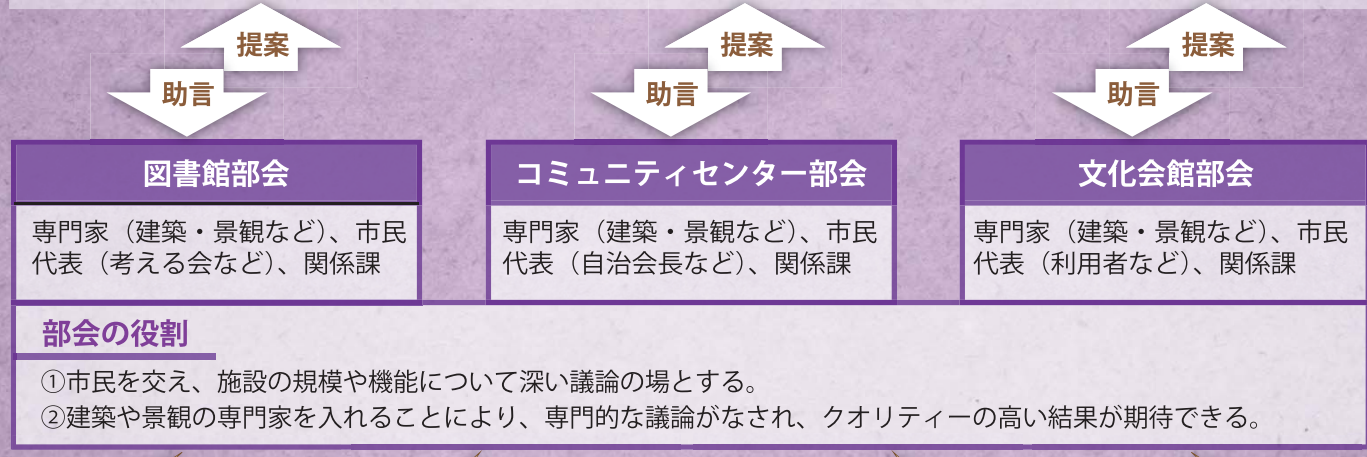


事業推進を図るための組織体制

竹田市城下町再生プロジェクト委員会

組織	有識者、市民代表、関係団体、市役所により組織(委員長:中井祐 東大教授)
役割	①まちづくり基本計画策定への意見提案 ②各部会から挙げられる検討案の審議 ③各部会の案件の調整 ④市民との協働関係の構築



市民意見の聴取

- 【TOP懇談会】**
市内7地域で実施
- 【TOPミーティング】**
市内各自治会、各種団体を対象に意見聴取
- 【ワークショップ】**
竹田地区内の希望自治会、商店街振興組合、各種団体を対象に実施
- 【市民アンケート】**
市民アンケート、高校生アンケート、主要3施設に関する個別意見聴取

検討経過

年月日	事項
平成23年5月21日	竹田市エコミュージアム構想「城下町再生フォーラム」—竹田の情感まちづくりに向けて—
平成24年2月5日	シンポジウム『城下町の青写真を探る ~図書館と城下町再生(都市づくり)~』
平成24年3月18日	竹田エコミュージアムシンポジウム —『自律型まちづくり』を目指して—
平成25年11月6日	城下町再生プロジェクト 市民専門部会設置(コミュニティセンター部会、図書館部会、文化会館部会)
平成25年11月22日	城下町再生プロジェクト委員会設置
平成26年2月7日	竹田市都市再生まちづくり基本計画及び竹田地区都市再生整備計画市民説明会
平成26年2月10日~2月23日	都市再生整備計画書(原案)パブリックコメント
平成26年2月17日	歴史的風致維持向上計画住民説明会
平成26年2月21日~3月2日	歴史的風致維持向上計画パブリックコメント
平成26年3月	竹田市都市再生まちづくり基本計画策定
平成26年3月	竹田地区都市再生整備計画認可(国土交通省)
平成26年6月23日	歴史的風致維持向上計画認定(主務大臣(国土交通大臣、農林水産大臣、文部科学大臣))
平成27年1月26日	竹田市中心市街地活性化基本計画(案)市民説明会
平成27年3月6日~3月23日	竹田市中心市街地活性化基本計画(案)パブリックコメント
平成27年3月	竹田市都市再生まちづくり基本計画改訂
平成27年6月30日	竹田市中心市街地活性化基本計画認定(内閣総理大臣)

まちづくり基本計画

に関するお問合せ先

竹田市総合まちづくりセンター

〒878-8555 大分県竹田市大字会々 1650 番地
TEL:0974-63-1111 (代表)
HP:<http://www.city.taketa.oita.jp/>
発行年月:平成27年3月第1回改訂(平成26年3月策定)



竹田市都市再生まちづくり

基本計画 概要版

—城下町の風情が五感に響く“情感まちづくり”—



平成27年3月

〔平成26年3月 策定〕
〔平成27年3月 第1回改訂〕

竹田市

まちづくり基本計画策定の背景



竹田市は、中心市街地の活性化に向けた「城下町再生プロジェクト」構想を立ち上げ、東京大学景観研究室の協力を得るなど、「情感まちづくり」に向けた調査研究を重ねてきました。中心市街地は、古くから岡藩の城下町として栄え、その400年の歴史の上には、これまでに培われてきた貴重な文化的・芸術的財産の集積があります。また、「地域の顔」として賑わいと活力をもたらすとともに、産業全体を牽引する役割を担ってきました。こうした経緯から、中心市街地の再生は、市の重点施策として着手しなければならない重要な課題となっています。

現在中心市街地に、コミュニティセンターや新図書館などの建設、また、周辺には文化会館の復興建設が計画されています。これからの城下町再生に向けては、計画的なまちづくりを進めていかなければなりません。

このため、市は10年後の在るべき城下町の将来像を描く、『都市再生まちづくり基本計画』を策定し、将来ビジョンを市民の皆様によりわかりやすく示すこととしました。

竹田市におけるまちづくりの取組

①城下町を中心としたイベント・催し

1) 農と食の博覧会

- 様々な催しによる竹田の農村景観や食文化のアピール。

2) イベント等

- 「岡藩城下町雛祭り」「岡城桜まつり」など、まちを歩きながら楽しめるイベントを、中心市街地の関係機関・団体と協力し開催。

②まちづくり団体・大学と連携した取組

1) 竹田地区市街地活性化協議会

- 中心市街地の活性化に向けた計画づくりなどを行い、「中心市街地活性化構想」を提案。
- こうした民間の関係組織・団体の要請に協働し、今後の中心市街地活性化の具体化に向け、市行政と一体となった検討を実施。

2) 大学等との交流連携

- 「TOP運動」の一環として、「大学のないまちに大学生があふれ、学び集う竹田」をキャッチフレーズに、県内4大学と協力協定を締結し、相互に連携協力した活動を展開。
- また、エコミュージアム構想や城下町再生プロジェクト等の政策課題について、東京大学景観研究室と受託研究を展開。

《廃校の利活用による大学連携の推進》

- H22.4.1に旧下竹田小学校を利用した大分県立芸術文化短期大学竹田キャンパスという新たな交流拠点が誕生。
- H23.12.2に旧双城中学校を利用した別府大学文化財研究所竹田センター及び竹田市・大学連携センターがオープン。

《県内各大学参加による意見交換会の実施》

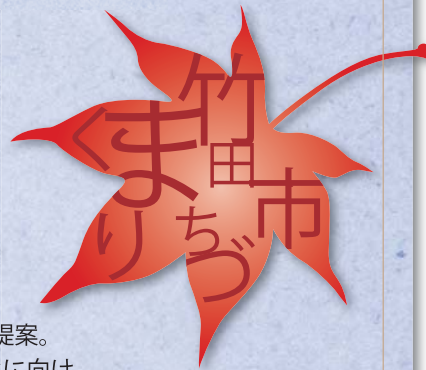
- H22.7に各大学の連携担当者が竹田市に集結し、今後の継続的かつ発展的な交流を目指した意見交換会を実施。

《東京大学との連携による「城下町再生プロジェクト」の展開》

- 東京大学景観研究室とは、受託研究事業として、竹田市エコミュージアム構想の推進を構築する調査研究事業をタイアップして実施。

3) 市行政におけるまちづくり研究会等の開催

- H24年度に「エコミュージアム市民会議」を設置
- 総合まちづくりセンターに中心市街地で活動する若手事業者をメンバーとする「まちづくりコーディネーター」を設置
- 市内では、若手職員を中心に「城下町再生プロジェクト」を政策課題としたまちづくり研修を開催

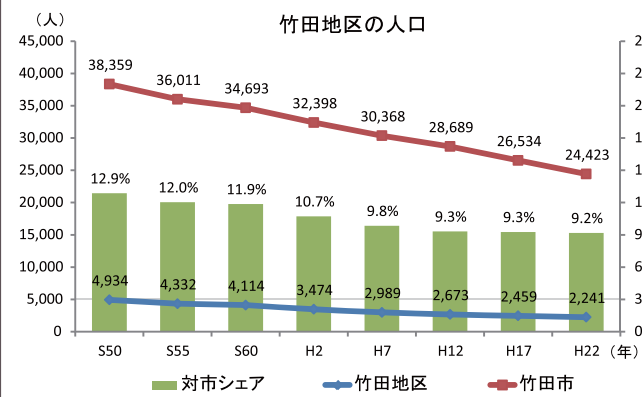


中心市街地の現状



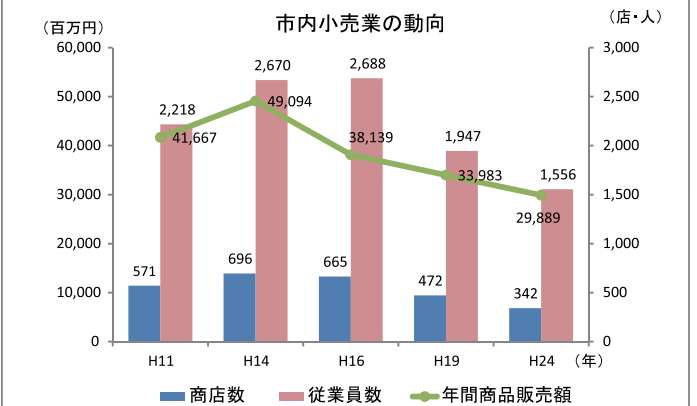
◆居住者数の推移

◆竹田地区の人口は、一貫して減少傾向、対市シェアは9.2%



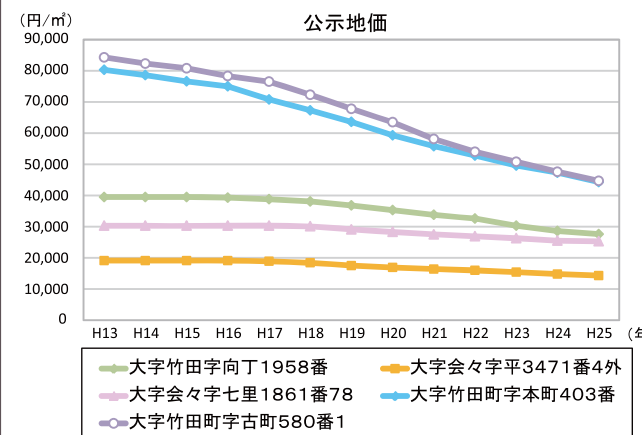
◆商業の推移

◆小売業の年間販売額、商店数、従業員数は減少傾向



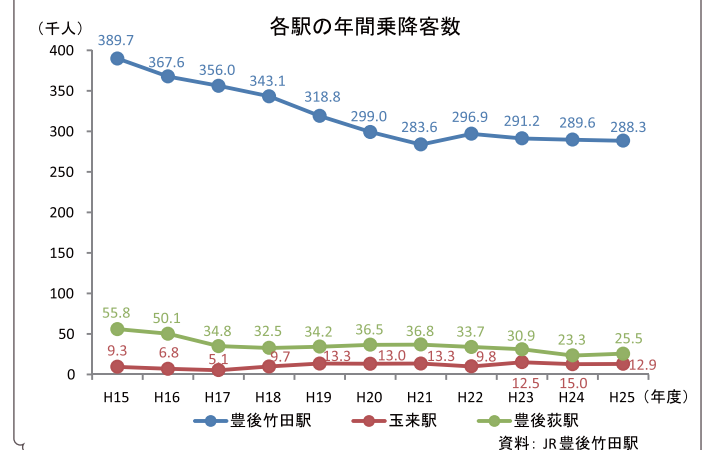
◆地価の推移

◆中心市街地の下落率がかなり高い
◆その他の住宅地も下落傾向が継続



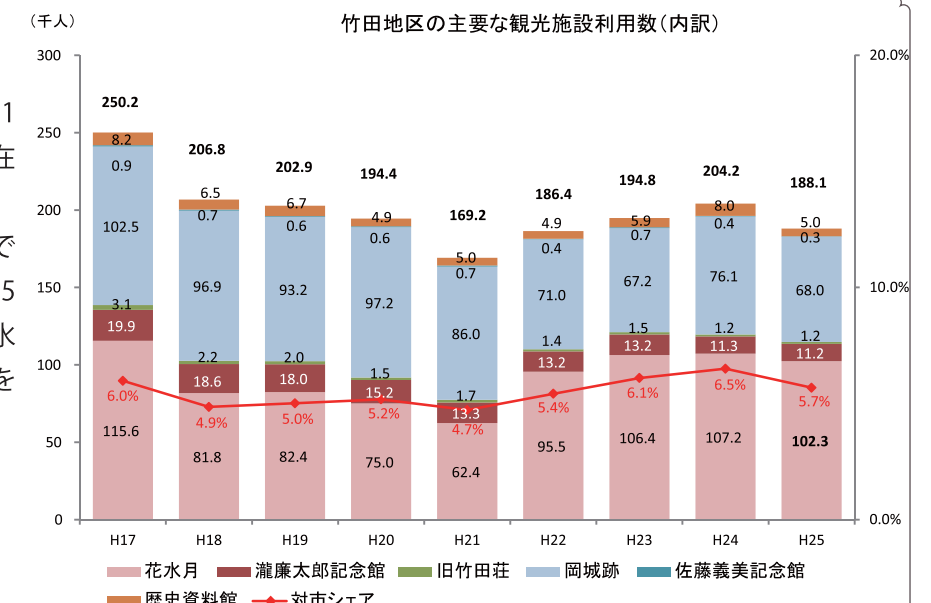
◆駅乗降客数の推移

◆市内には豊後竹田・玉来・豊後萩駅の3駅
◆最も利用客が多いのは豊後竹田駅であるが、全体の乗車人員は減少傾向



◆観光客数の推移

◆地区内の主要施設利用客数は、平成21年以降増加傾向にあり、平成25年現在で18.8万人となっている
◆竹田地区の対市シェアは5~6%前後で推移、地区内の主な施設の内訳(平成25年)では、温泉・飲食施設を有する花水月が10.2万人で最も多く、全体の54%を占め、岡城跡6.8万人が続いている

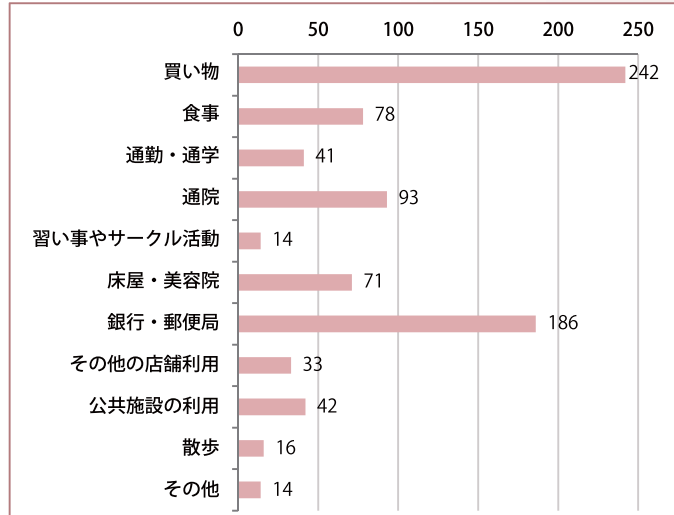




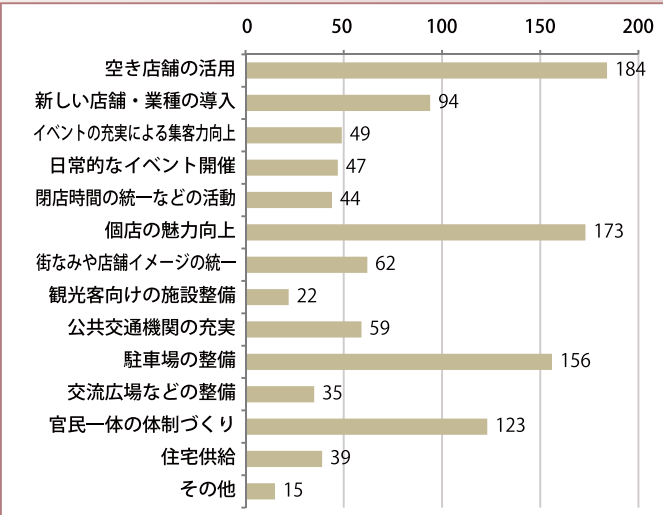
まちづくり市民アンケート調査

- 実施期間：平成25年9月1日(日)～平成25年9月20日(金)
- 対象者：市内に居住されている方から1,000人を無作為に抽出
- 回収率：42.2%(回答者422人)うちインターネットによる回答8人

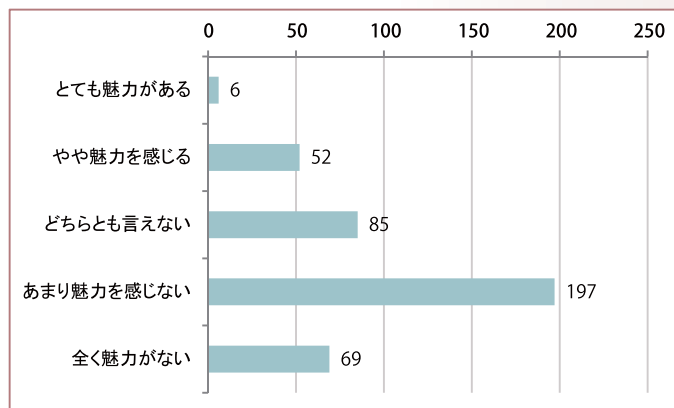
◆中心市街地の利用目的



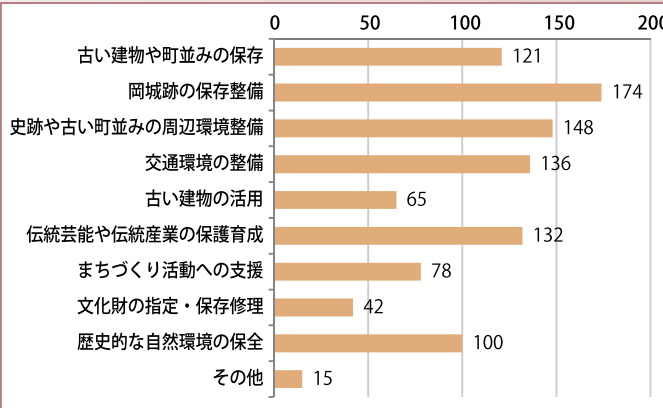
◆中心市街地に必要な取組



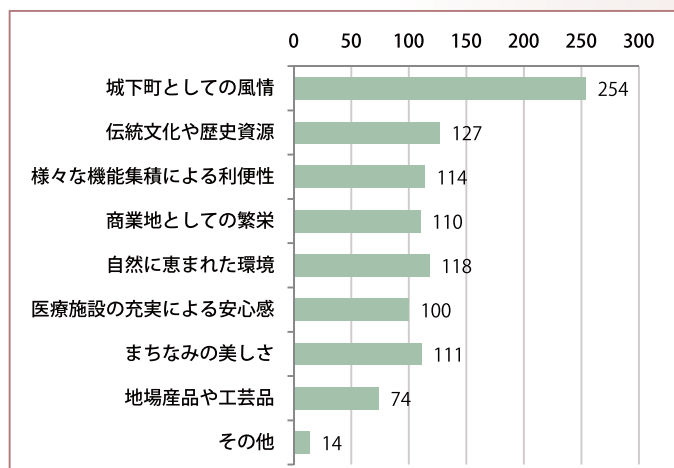
◆中心市街地の魅力



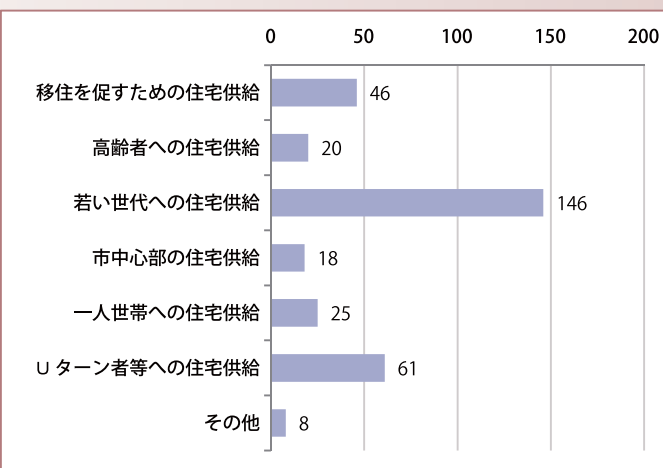
◆歴史的遺産の活用



◆中心市街地が活かすべき魅力



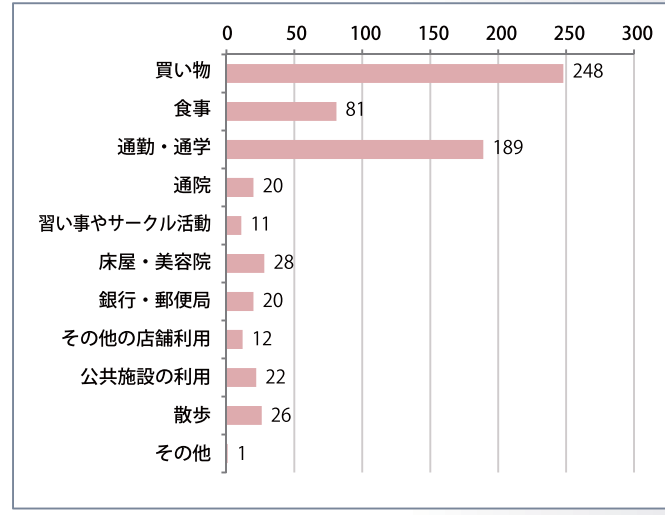
◆定住促進の取組



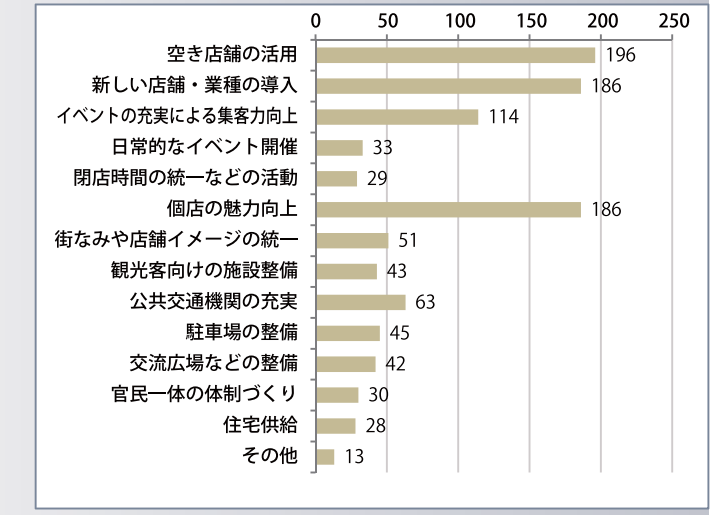
高校生アンケート調査

- 実施期間：平成25年9月5日(木)～平成25年9月27日(金)
- 回答生徒数：411人
- 内訳
 - 竹田高校 284人(1年生・2年生)
 - 竹田南高校 93人(全学年)
 - 三重総合高校久住校 34人(全学年のうち竹田市出身者)

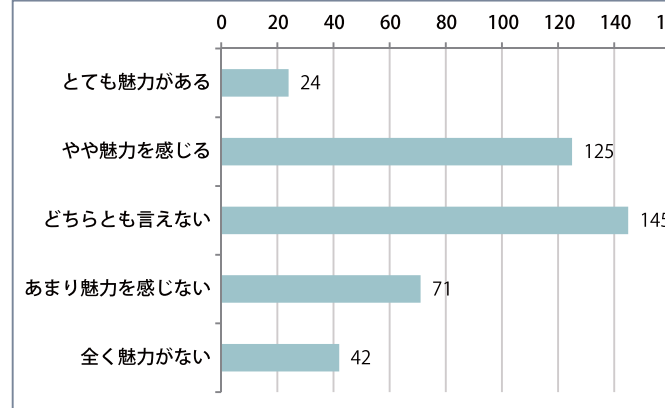
◆中心市街地の利用目的



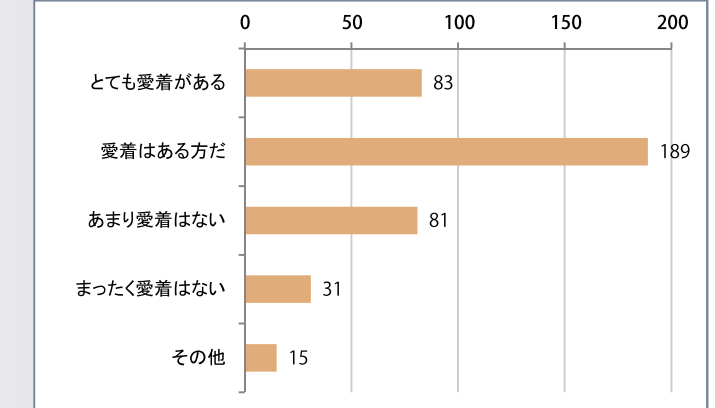
◆中心市街地に必要な取組



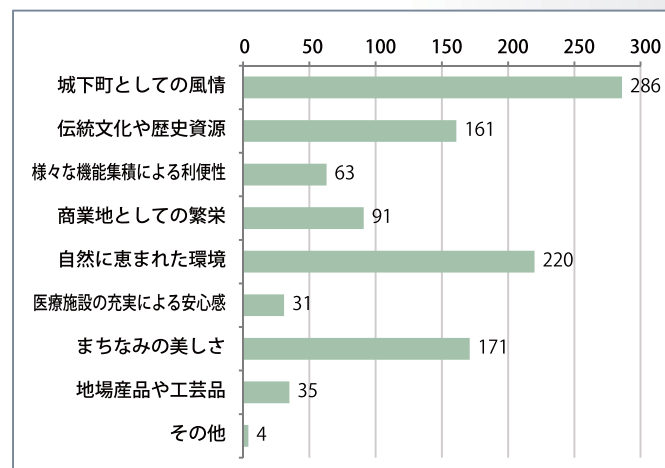
◆中心市街地の魅力



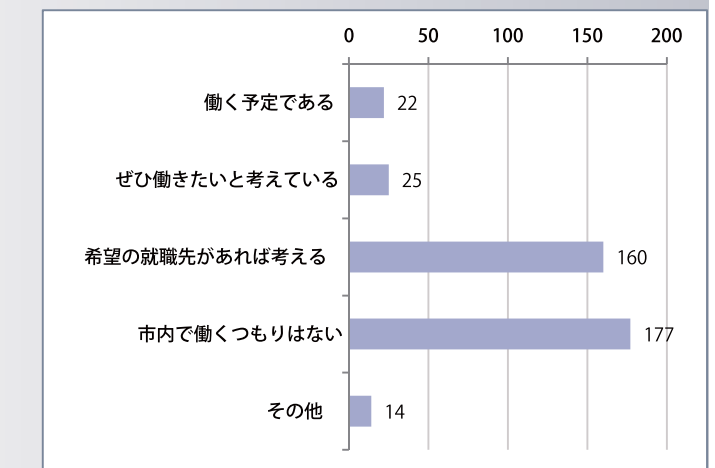
◆竹田市への思い(故郷としての愛着)



◆中心市街地が活かすべき魅力



◆竹田市への思い(将来の就業意向)



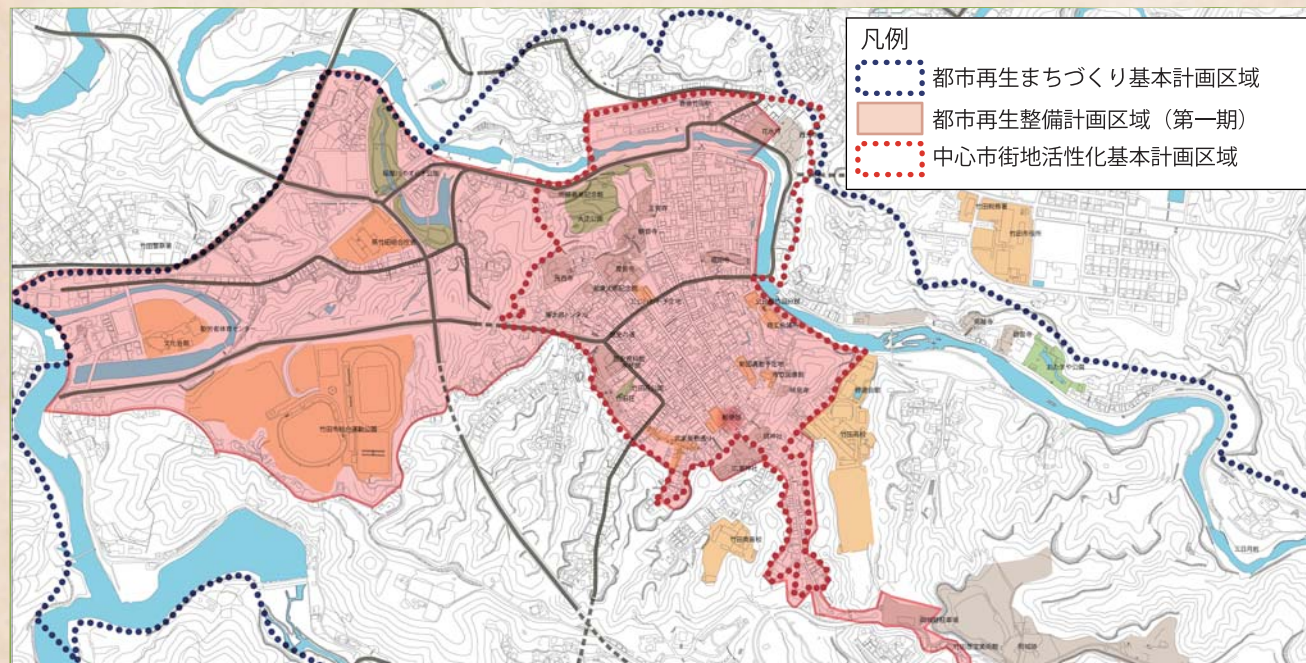


1 検討の範囲

都市再生まちづくり基本計画(10年計画): 中心市街地と関連性の高いエリアまで含む
(平成26年度～平成35年度)

都市再生整備計画区域 第一期(5年計画): 5年間で事業実施するエリア → 二期に続く
(平成26年度～平成30年度)

中心市街地活性化基本計画区域(5年計画): 中心市街地の活性化、機能集積を図るエリア
(平成27年度～平成31年度)



2 竹田地区の課題

- (1) 歴史的風致と街並み景観の保全・活用
- (2) 城下町の風情のある街並みを歩いて楽しめる場所の形成
- (3) 都市基盤整備や都市機能の集約による利便性の高い居住環境の形成
- (4) 空き地や空き店舗の発生防止に向けた商業地としての活力と魅力の向上
- (5) 日常生活や市民活動の拠点となる場所の形成
- (6) 地域住民が交流できる施設の充実による地域コミュニティの維持・形成
- (7) 高齢者や障がい者をはじめとした誰もが利用しやすい市街地環境の形成

3 まちづくりの目標 都市再生まちづくり基本計画の基本理念

城下町の風情を中心市街地の最大の武器として活かし、観光客や市民に竹田の魅力を五感で感じさせることが、本市中心市街地の再生に非常に重要なことだと考えられます。

このため、都市再生まちづくり基本計画の基本理念を次のように設定し、中心市街地の魅力づくりを進めていきます。

城下町の風情が五感に響く“竹田情感まちづくり”

【基本理念を実現するための基本方針】

基本方針 1

城下町の風情を生かした観光拠点づくり

歴史や文化に育まれた城下町としての特色を生かし、城下町の風情と魅力づくりを住民や商業者、行政が一体となって取り組むことで、城下町の風情を生かした観光拠点づくりを進めます。

基本方針 2

市民が日常的に利用できる中心市街地づくり

様々な都市機能が集積する場所として、市民が日常的に利用できる親しみやすく身近な中心市街地づくりを進めます。

基本方針 3

歩いて楽しいにぎわい商業地づくり

買い物や施設利用に限らず、余暇や散策にも利用できる回遊性ある商業地を形成し、様々な用途に対応できる空間づくりを進めます。

基本方針 4

安心して快適に生活できる居住地づくり

生活に必要な各種サービス施設が充実し、利便性の高い安心して生活できる居住空間を提供することで、まちなかでの居住地づくりを進めます。

4 目標とする指標の設定

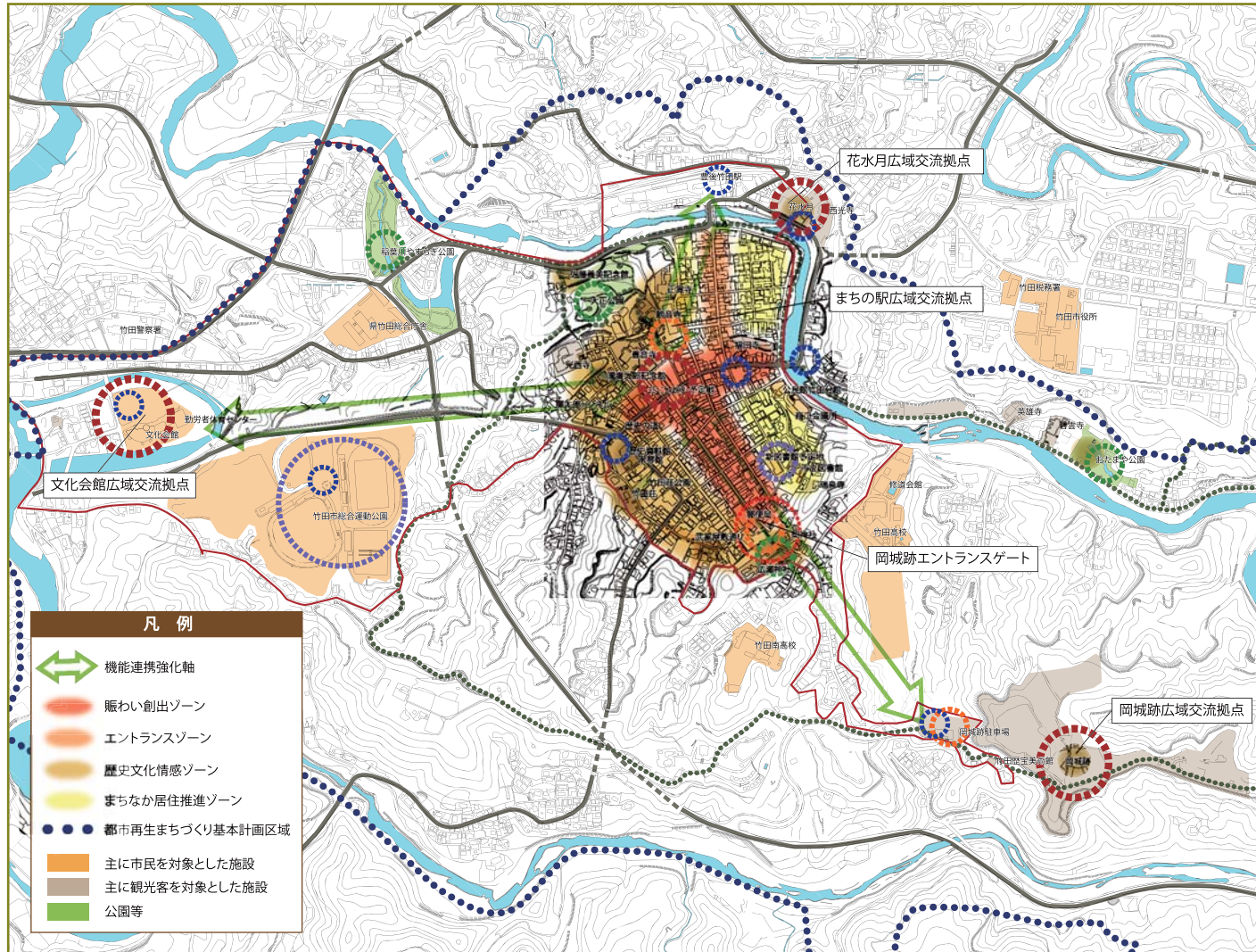
目標1 安心快適なまちなか居住地づくり 目標2 ふれあいとにぎわいのあるまち 目標3 城下町を情感する観光交流拠点の形成

指標1 城下町の居住人口 指標2 公共施設利用機会の向上 指標3 地区観光客数



5 まちづくり基本方針

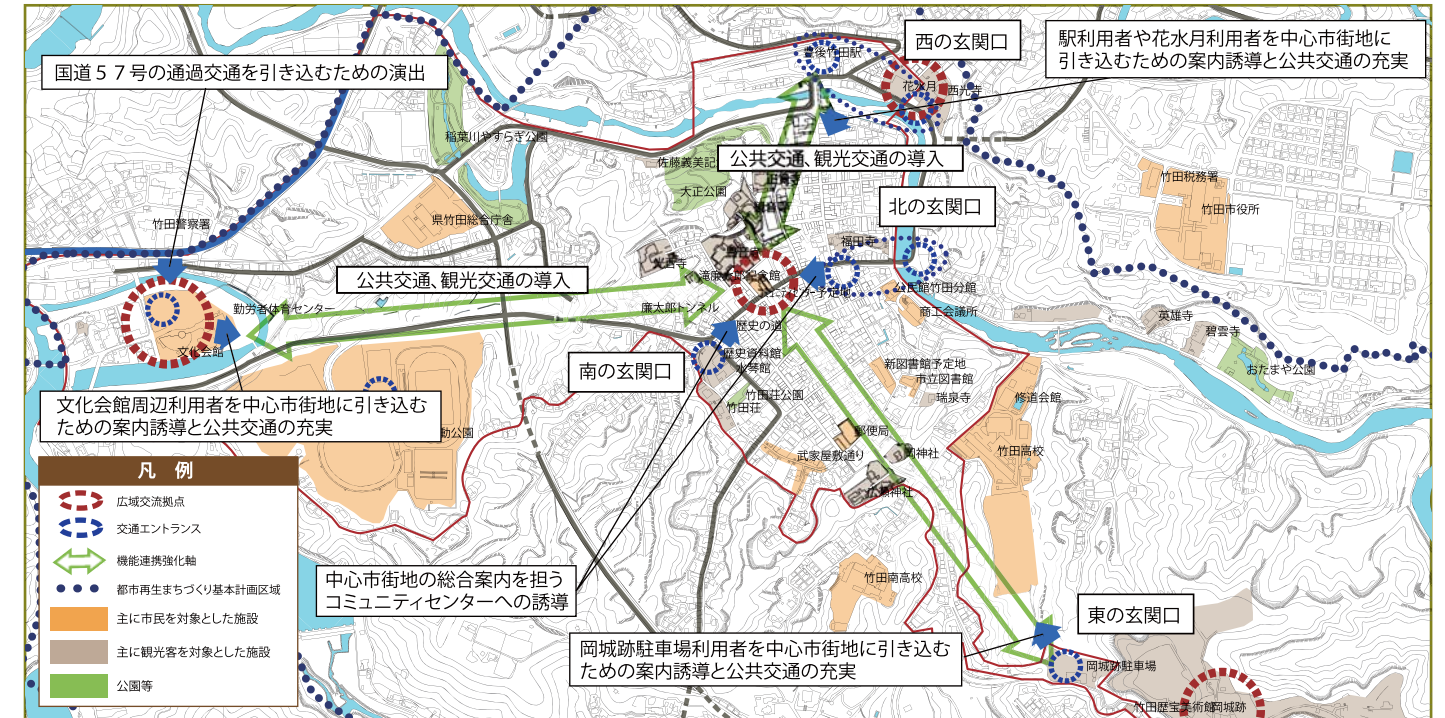
都市再生まちづくり基本計画を戦略的に実施していくためのまちづくりに関する基本的な骨格構成を定め、各拠点が担うべき役割と連携強化軸の設定を行います。



凡例	骨格構成	整備の方向
	広域交流拠点	広域からの利用者を対象として、観光客や市民が交流できる空間を形成します。
	エントランス拠点	岡城跡へのエントランス空間として、案内や休憩場所として活用します。
	ふれあい交流拠点	市民と観光客がふれあえる場所として活用します。
	地域交流拠点	地域住民や市民の交流活動の場として活用します。
	歴史・観光資源	歴史文化施設であり、観光活用できる整備を行います。
	視点場・憩い空間	中心市街地の癒しのスポットとして観光利用に生かします。
	交通エントランス	観光客の交通拠点として、駐車場や公共交通への乗り換えなどの整備を行います。
	歴史回廊軸	竹田の風情を感じられる回廊軸として、歩行者空間の整備や案内整備を充実します。
	自然回廊軸	自然を満喫し、街並みや歴史を感じながら、日常的に散歩できる歩行者空間とします。

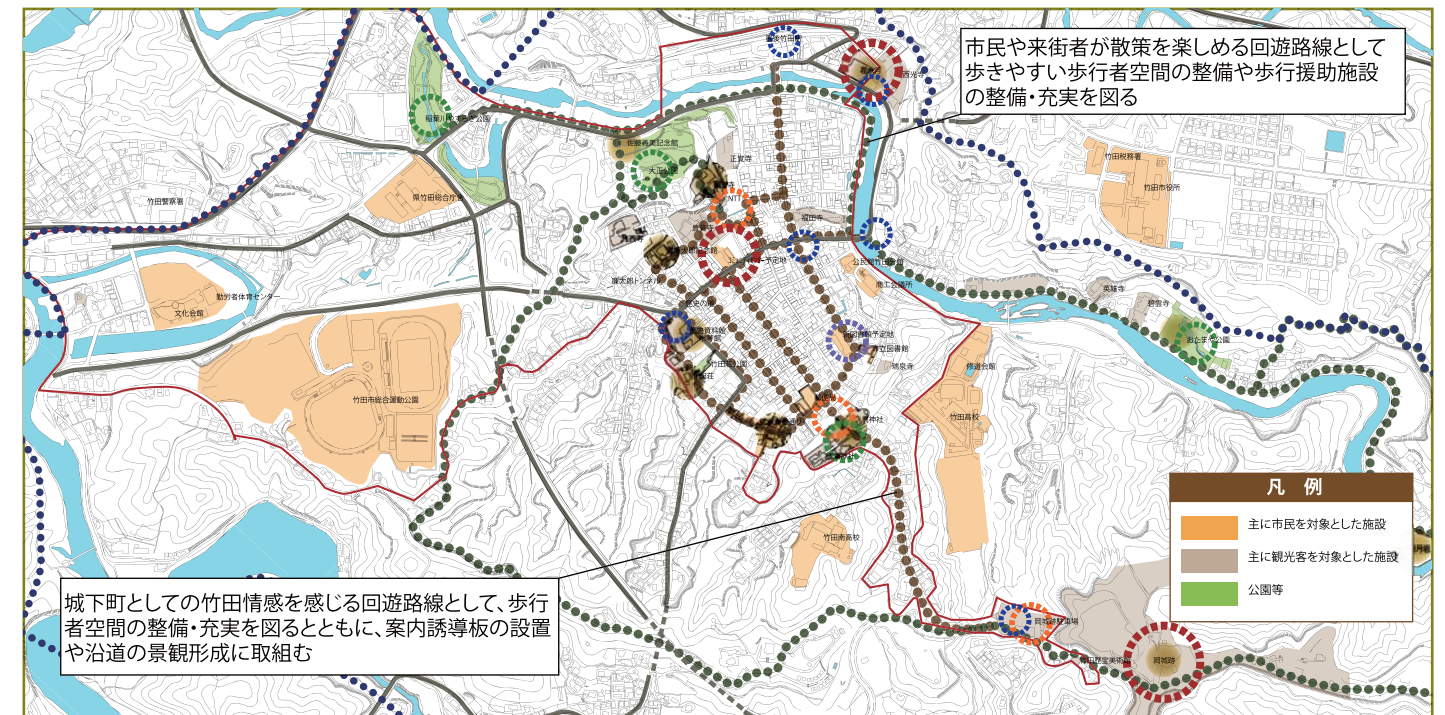
戦略 1 中心市街地への観光誘導戦略

観光客をまちなかに誘導するための各方面の玄関口を設置し、中心市街地に誘導する手段や対策を戦略的にいきます。



戦略 2 まちなか回遊戦略

市民や観光客がまちなかを散歩できるようなルート及び拠点を設け、たくさんの人々がまちなかを回遊する対策を講じます。



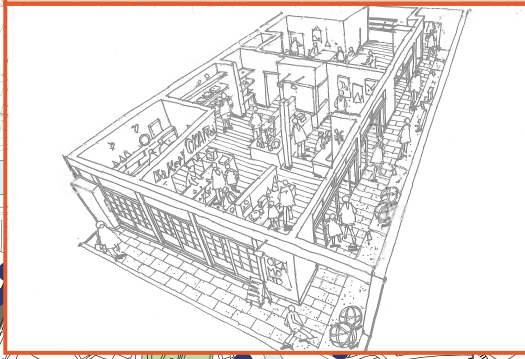
竹田市都市再生まちづくり基本計画 まちづくりイメージ・事業位置図 城下町の風情が五感に響く“竹田情感まちづくり”

計画期間：平成25年～平成35年（10年間）

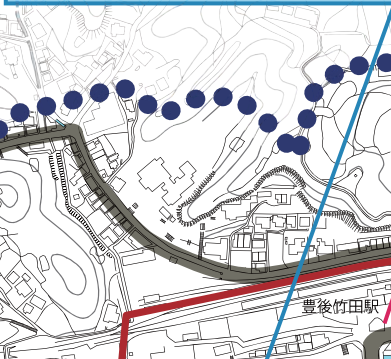
31 空き店舗活用チャレンジショップ事業



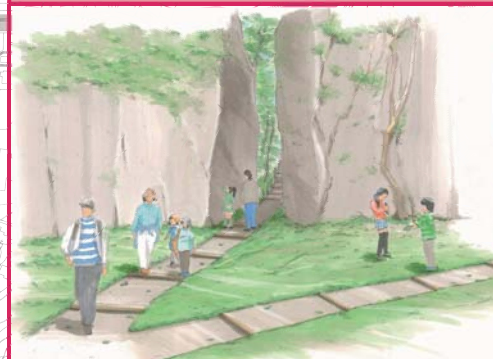
29 商店街まちの駅整備事業



22 瀧廉太郎記念館改修事業



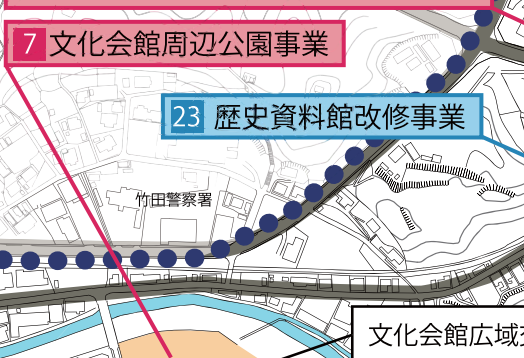
2 遊歩道整備事業



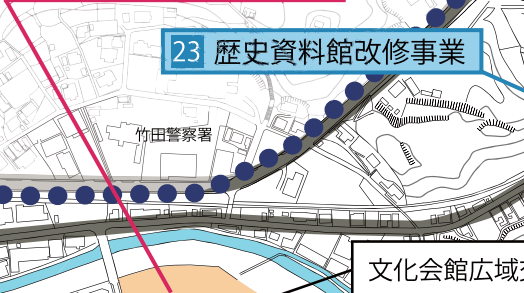
4 電線類無電柱化整備事業



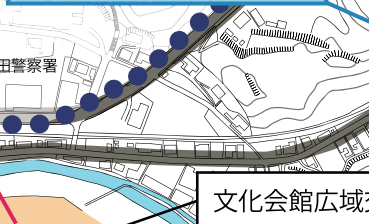
5 稲葉川やすらぎ公園事業



7 文化会館周辺公園事業



23 歴史資料館改修事業



文化会館広域交流拠点

16 竹田市文化会館等施設復興整備事業



6 竹田荘公園事業



18 新竹田市図書館建設事業



岡城跡エントランスゲート

13 駅前広場周辺整備事業



花水月広域交流拠点

まちの駅広域交流拠点

17 竹田市コミュニティセンター(仮称)整備事業



9 道路美装化整備事業



- 3 駐車場整備事業
- 8 ポケットパーク整備事業
- 10 通り抜け路地整備事業
- 11 街路灯整備事業
- 12 城下町再生浄化槽管渠調査事業
- 14 伝統的建築物改修事業
- 15 街なみ環境整備事業

- 20 暮らしのサポート中央センター整備事業
- 21 こども保険医療福祉センター(仮称)整備事業

- 24 空き家改修事業
- 25 老朽危険空き家等除却促進事業
- 26 定住促進ビジョン策定事業
- 27 TSGアートレジデンス構想推進事業

- 28 竹田魅力発掘事業
- 30 城下町竹田観光周遊事業
- 32 “suBoca”カード地域通貨導入事業
- 33 人材育成事業
- 34 民間誘致低融資事業
- 35 wi-fiスポット整備事業
- 36 城下町賑わい再生推進事業
- 37 竹楽魅力向上事業
- 38 タウンマネージャー設置事業
- 39 商店街診断・サポート事業
- 40 商店街魅力向上支援事業
- 41 医商連携のまちづくり推進事業

- 42 コミュニティバス運行事業
- 43 案内看板等整備事業
- 44 中心市街地土地空間高度利用調査事業

- 45 事後評価分析調査

凡例	
■	市街地の整備改善
■	都市福祉施設の整備
■	街なか居住の推進
■	商業の活性化
■	公共交通機関の利便増進
■	その他

19 岡城ガイダンスセンター整備事業

岡城跡広域交流拠点

1 道路事業

